

担い手通信

2024
vol. 1

24年度見込み

米粉需要 伸び盛り 用途多様化 2割増

米粉の需要が急速に高まっています。2024年度の米粉用米の需要量は過去最高の6万4000トンとなる見通しで、23年度実績の見込みから21%の伸びとなります。小麦の代替需要や健康志向で注目度が高まる中、食感を高められる米粉の特徴を生かした商品開発が進み、消費が拡大しています。

需要量は、農水省が製粉業者などへの聞き取りからまとめました。

直近、23年度の米粉用米の需要量は5万3000トンで、23年3月時点の見通しから5000トンの上振れを見込みます。5年前の18年度比では7割増となります。国際的な穀物価格の高騰で小麦の代替需要が高まったことに加え、パンや麺、菓子など幅

広い分野で米粉の特徴を生かした商品開発が進んだことで、米粉商品の消費が拡大したことが要因です。

需要拡大を受けて、24年産の米粉用米は作付け拡大が期待されています。需要や在庫を基に農水省が推計した24年産米粉用米の必要供給量は、5万9000トン。23年産の見込み生産量の4万トンから約1.5倍となります。

ただ、米粉用米の需要は重量ベースで小麦（約560万トン）の100分の1程度にとどまるなど、市場規模はまだ限られます。農水省は、「需要に応じた増産が重要」（穀物課）と強調します。

求められる品質 明確に

解説

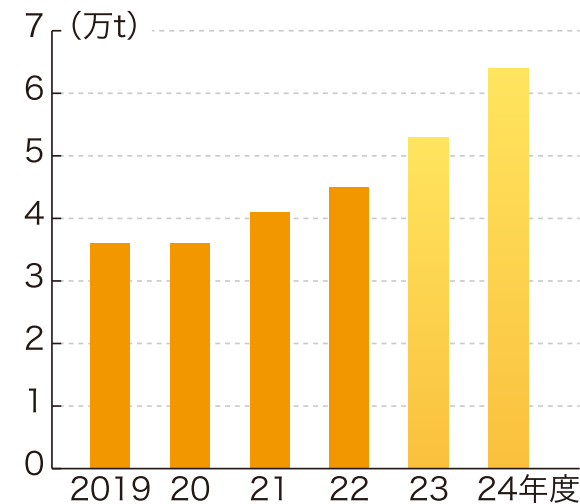
小麦の輸入不安を機に盛り上がる米粉商品の需要だが、健康性やもちもちとした食感などで純粋な評価を高めている背景がある。

需要拡大を維持するには課題も。製菓業者などから「米粉は産地や商品ごとに吸水率など品質のぶれが大きく使いづらい」とした指摘が多い。開発過程で商品化を断念するケースも出ている。

グルテンを含まない米粉100%であることを発信する「ノングルテン米粉第三者認証制度」や米粉の用途別基準も作られたが、実需者が真に求める情報が十分に届いているだろうか。原料米の品種特性や製粉方法、でんぷん損傷率なども含めて適切に発信する重要性が増している。需要の伸長を、作付け拡大へとつなげる好循環を生み出したい。

（鈴木雄太）

米粉の需要が伸びている



※23、24年度は見込み（農水省の資料を基に作成）

（日本農業新聞 2024年3月17日）